

【児童への話】

今日は、1年間の学習や生活のまとめの日です。皆さん、毎日よく頑張って学校に来ましたね。毎日の生活、お勉強やお掃除など、すべきことを確実に言い、自分を高めようとする努力ができることは、とても素晴らしいことです。これからも、努力を怠らず続けることができる、ステキな番町の皆さんでいてください。

それでは今から、自分の1年をふり返ってみましょう。みなさん、目を閉じて、校長先生の問いかけを心で聞いて、考えてください。手は挙げないでいいです。始めますので、静かに目を閉じましょう。この1年を、心の中で思い出し、一日ひとつ、学習や活動がんばって、自分が「考える子」になれたと感じたことがありますか？

この1年を、心の中で思い出し、一日ひとつ、人のためになることをして、自分が「思いやる子」になれたと感じたことがありますか？

この1年を、心の中で思い出し、一日ひとつ、苦手なことにも諦めずにチャレンジして、自分が「やりぬく子」になれたと感じたことがありますか？

目を開けてください。さあ、いかがでしたか？まず、自分はできていたと思えたことを大切にしてください。それは、皆さんの努力の成果です。次に、自分はできていなかったと思ったことを確かめてください。それは、4月からの課題です。

今日、皆さんがもらう通知表を、校長先生は全員分読みました。皆さんがよく頑張ったことが書かれています。担任の先生からの今年度最後のお話だと思って、しっかりと読んで確かめてください。

それでは今日のお話の最後に、先生から番町小の皆さんに、言葉を贈ります。先生が大好きな推理小説に出てくる探偵の台詞から、ぜひ覚えておいてほしいカッコいい言葉を皆さんに贈ります。次の言葉です。

『**強くなければ 生きていけない。優しくなければ 生きていく資格がない。**』

この言葉は、人が生きるのにたくましさや賢さは必要だけれど、生きていくうえで一番大切にしなければならないのは「優しさ」である、という意味です。

優しさというのは、もって生まれた能力に依るものではなく、その人がそうしたいと思うことから生まれる行為です。優しい人であろう、優しい人でありたいと強く思うことで、誰でも優しい人になれるということです。校長先生は、番町小の皆さん全員が、人に優しくでき、誰からも好かれる人になって欲しいと心から思っています。そして、皆さんのこれからの幸せを、心から願っています。

1年間、よく頑張りました。4月からも、努力を重ねることができる、ステキな皆さんでいてください。

【本講話について】

本年度の教育活動は、いよいよ明日の卒業式を残すのみとなりました。修了式の子どもの様子を見ると、大事な儀式に臨むよい姿勢を示すことができる子がとても多く、次年度への明るい希望をもっていることがよく分かります。半面、コミュニケーションの第一歩である「聞くこと」が苦手な子どもも多く見られ、次年度以降も課題となる部分だと思えます。

令和6年度、子どもの成長した姿を記した通知表を、本日渡しています。ご家庭でよくお読みいただき、学習の三段階の結果だけでなく、総合所見に書かれている内容をよくご確認のうえ、お子さんの成長した部分についてたくさん褒めてあげてください。4月、前向きで気持ちよくスタートできるように、ご家庭の励ましを、ぜひお願いします。

本年度、諸々お世話になりました。校長が代わる新年度も、番町小をよろしくお願いします。